

実はもう

赤字？

現在、国保会計の状況はとも厳しい状況に陥っています。実は加入者の保険税や国などからの補助金だけで収支のバランスをとらなければならぬ事業なのですが、ここ数年実際には赤字の状況です。ではいったいその赤字の原因や処理はどうしているのでしょうか？

平成 21 年度データー

- ◎決算は 3 千万円程度の実質赤字！
- ◎国民健康保険税の収納率 94.06%
- ◎平成 22 年度以降の見通しは？

結論を急がず最後までお読みになつてください。

医療費の増加？

日本の医療水準は世界最高水準と言われています。その分高度な治療にはとても高額な費用がかかります。

安平町の傾向としては高度な医療の利用で医療費が増加している傾向ではありませんが治療が長期化するような疾病(糖尿病など)による増加傾向となっております。

さらに人工透析患者の増加も傾向の一つでしょう？

次に長い間仕事を続けた方が会社を辞めて国保の加入者になったとたんに病院通いの方も増えていきます。医療費が掛かって町も大変ですがそれ以上に病気になる方も増えています。

ですがそれ以上に病気になる方も増えています。

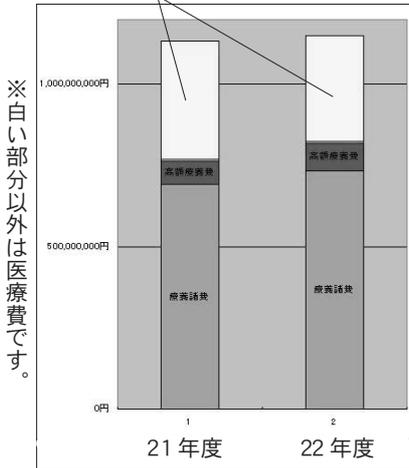
特定健診制度の開始

以前の健診は早期発見早期治療といった目的を重点に、町が健診を実施していました。ところが平成 20 年度からは

もつと先をみて病気の予備軍をみつめて将来病気にさせないように保険者(国民健康保険)が責任をもつて健診を行いました。(健診を行うのは町から町の国保に変わったのです。)しかし安平町では今まで実施してきた検査による異常が多かった項目についても継続して検査する体制をとり健診の充実を図っています。

歳出の合計は
 H 20 11億3,291万円
 H 21 11億5,039万円
 約1,748万円増加
 うち療養諸費と高額療養費は前年度と比較して約5,516万円増加

保健事業費など
(健診経費・事務費など)



※白い部分以外は医療費です。



検査(健診)料金は、通常医療保険の対象とはならず全額自己負担です。

国保が実施する特定健診は、自己負担 1,000 円で受診できるよう設定しています。

(検査料金は検査機関で異なりますが 7 千円以上が一般的です。)

特定保健指導の実施



健診制度が改正となり、病気になるような人々への保健指導を実施しています。

このことが将来病気の発症を回避し医療費の抑制につながる対策です。要するに健康な人を増やそう！なのです。

しかし現在のところ健診の受診者が多くありません。特に若い方や今まで一度も健診や病院にもいかなかった「自称健康」の方には特に受診してほしいのです。

若いうちから健診の習慣を身につけていただければ本当の意味で病気になるような対策を実施できます。